

誰にでもすぐ電話できる
環境づくり

～聴覚障害者の社会的
自立のために～

- コーディネーター：
井上 正之（国立大学法人 筑波技術大学）
- コメンテーター：
 - 高岡 正氏（一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 相談役）
 - 伊藤 芳浩氏（NPO法人インフォメーションギャップバスター 理事長）

今日の流れ:

- 電話リレーサービスのデモ
- 電話リレーサービスで何ができるか～会場の皆さんからの意見・交換～
- まとめ(コメンテーター, コーディネータ)

参加者の皆さんへ確認：

- ろう者（手話）？
- 難聴者（音声）？
- 聴者？
- 電話リレーサービスを使ったことがある？

まず…

- 電話リレーサービスの体験を試してみましよう！

フロアディスカッション:

- 電話リレーサービス:
 - こんな使い方しています
 - ここが不便
 - ここが不満
 - などなど・・・

• I have a dream...
(私には、夢がある)

- 黒人の差別解消のために尽くしたマーティン・ルーサー・キング牧師の有名な言葉
(1963年8月28日の演説)

私の「夢」は・・・

- 日本で、公的な電話リレーサービス (Telecommunication Relay Service; TRS) を実現させること

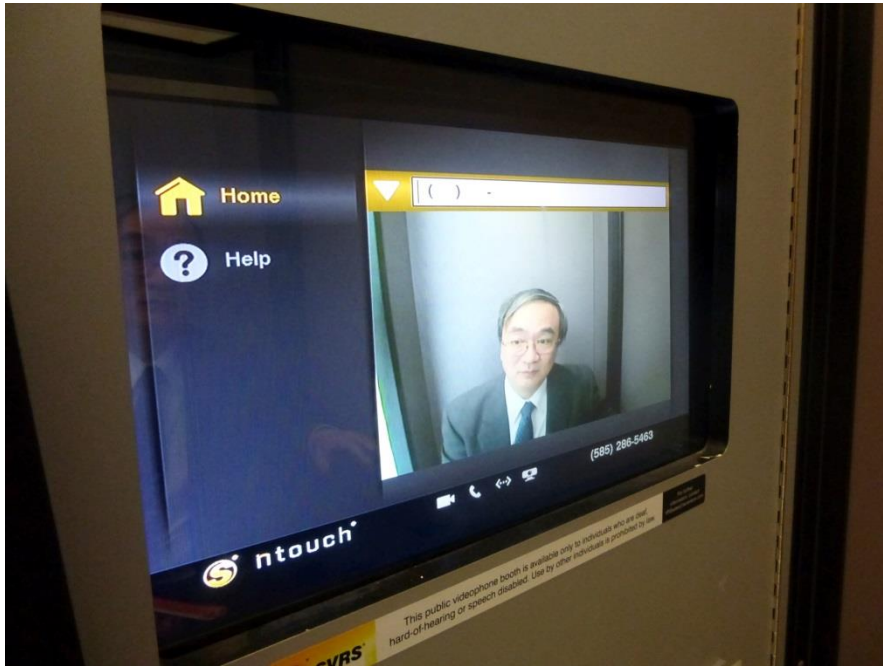
各国の状況:

米国



- 上の写真は、米国・Gallaudet大学の展示コーナーにあった、世界で最初の聴覚障害者のための文字通信端末TDD (Telecommunication Device for the Deaf)
- 1960年代に米国の聴覚障害エンジニアが開発し、これを元に電話リレーサービスが開始された(下の写真が、世界で最初に電話リレーサービスを始めた3人のろう者)。
- 現在、手話によるVRS (Video Relay Service)と文字電話Captelの利用が広がっている。

アメリカの大学では・・・



Captel



声が出せる聴覚障害者向け。

自分の声はそのまま相手に伝わる

相手の話を文字化して表示

EU:

- 手話を利用したVRS (Video Relay Service) :
 - スウェーデン・ドイツ・英国・スイス・フランス・ノルウェー等、十数か国で実施
- VRSを促進する法的枠組み :
 - スウェーデン: 電気通信法
 - ドイツ: 電気通信法
 - 英国: 平等法
 - など...

英国におけるTRSの影響と利点

- 独立して起業するろう者が急増
- ろう者の管理職・ろう者が経営する企業が増加したため、それらの部署や企業でのろう者の雇用が増加

韓国

- 2004年にサービス開始
 - 現在(基本的にすべて無料):
 - 24時間・365日サービス提供
 - 文字リレー・ビデオリレー・音声リレーなど多様なサービスを提供、双方向での発着信が可能
 - 携帯のビデオ通話・スマートフォンのアプリなど通信手段も多種多様
 - リレーサービス利用のための全国統一番号(107)
- 2012年 52万件の利用、増加中
- 当初は税金で運営→通信事業者から資金を拠出

タイ

- 2011年、サービス開始
街角にある情報端末を利用したビデオリレーサービスなど



- サービス開始からまだ間もないが、
自立の推進などの効果が出始めている

日本での電話リレーサービス普及に向けた課題

- 「24時間、365日、すべての電話番号と、一般ユーザと同程度のコスト負担で」使用できるTRSを日本で開始することについては、技術的には特に大きな問題はない。
- TRSサービス運営にかかる費用の負担をどうするかが最大の課題。
 - 本来、国や通信事業者（NTT, KDDI, ソフトバンク等）の責任で実施するべきもの（電気通信事業者法）

日本財団によるTRSの試験サービス

- 2013年9月から開始
- TRSのサービス利用料は無料（通信料は自己負担）
- 文字リレーサービスとビデオリレーサービスの両方を提供
- 試験サービス委託事業者：
3社3団体、計6事業者
 - 「24時間、365日」ではない
 - 聴覚障害者からの発信のみサポート

日本財団モデルプロジェクト:

- 2013年9月から現在まで:
 - 利用者 約2,500人
- 2015年11月1日
 - 追加募集 500人 → 即日, 定員に達した
- 2015年12月1日
 - 追加募集 1,500人 → 即日, 定員に達した
- ニーズは確かにある!

日本の聴覚障害者は・・・

- 電話が自由に使えないことで、非常に多くのものを失っている。
- しかも、そのことに気が付いていない聴覚障害者が非常に多い。

我々が失っているものの例：

- 時間
 - ファクスやメールでは、時間がかかり、無駄が多い
- チャンス
 - 電話以外に連絡方法がないケースは非常に多い。「仕方がない・・・」それでもいいのですか？
- 命
 - 夜、あなたの家族が急病になったらどうしますか？

- インターネットの中でも利用頻度の高いWWW:1989年に考案
- WWWのアクセシビリティについては、視覚障害者に対する配慮が重要
- 日本でも、視覚障害者のWWWへのアクセシビリティ保障は当然のことと考えられるようになってきている

- 電話は、WWWよりもはるかに長い歴史を持っている
 - ベルが電話を発明した翌年の1877年に日本に入った
- 電話という日常生活に不可欠な通信サービスに対する聴覚障害者のアクセシビリティ保障がなぜ当然のことと考えられないのか？

最後に…

- 最初に紹介したキング牧師の演説の最後の言葉：

• Free at last! free at last!
Thank God Almighty, we
are free at last!!!

—(やっと自由になった！ やっと自由になった！
おお、全能なる神よ、感謝します、とう
とう我々は自由になったのだ！！！！)

- 日本で公的な電話リレーサービスが開始されたとき、私たち聴覚障害者は「自由」になる。その日が早く来るよう、共に頑張ろう！！！！